

電子複写不可

戦訓
3/4

沖繩、馬奈、ギルバート航空戦

①
戦訓
8

緒 第 第 第

一 二 三

一 偵 寫

察 關

關 關

言 般 係

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

· · ·

一 〇 一

二 五

(備考)

其

二 四 五 六 七

第 第 第 第

第 第 第 第

第 第 第 第

第 第 第 第

其

三 八 九 十

第 第 第 第

第 第 第 第

第 第 第 第

附 錄

空 戰

空 戰

空 戰

空 戰

空 戰

空 戰

空 戰

空 戰

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

戰 擊

(目次終)

120

20.7.30

海軍方面航空戰術訓練其目次

本戰訓ハ沖繩方面ノ戰鬪ヲ中心トスル最近ノ航空戰ノ實相並ニ各術科ノ最新戰法ヲ紹介スル專ヲ主眼トシテ早急ニ編纂セルモノナリ、モトヨリ研究不充分ニシテ追補修正スベキ點多々アルベシト雖モ時日ヲ費ス時ハ價値ヲ失スル虞アルヲ以テ取敢ズ速報トシテ配布ス

(終)

第一

一

一、戰局奇烈ノ度ヲ増スニ從ヒ全海軍愈結束ヲ堅クシ上下一致相携ヘテ滅敵一途ニ邁進スルノ要アリ

凡ソ兵戰ニ於テ人和ハ戰勝ノ根本的條件ナルコト古來幾多ノ名將達識ノ道破セルトコロニシテ又戰史ハ其ノ眞ナルコトヲ明證シアリ

果シテ然ラバ皇國存亡ノ繫レル現戰局ニ於テ戰鬪ノ喜ニ從フ者ハ眞ニ大和一致一點ノ時隙アルヲ許サレズ特ニ主兵タル航空部隊ニ於テ然リ

然ルニ現主戰部隊ノ景況ヲ見ルニ此ノ點ニ關シ若干ノ憂無キ能ハズ動モスレバ上下相乖離シ左右相反蓋スルノ傾向ナシトセズ

即チ上下ノ關係ニ於テ精神的紐帶羣衆ヲ缺キ時ニ上下ヲ信ゼズ下亦上ニ倚ラザルノ風ヲ見ルコトアリ或ハ公的利己心ヲ極度ニ發揮シテ自己ノ部隊トシテノミ精銳ヲ奪ヒ棄メ全隊ノ不利ヲ念頭ニ置カザル如キアリ或ハ狹少ナル所轄ノ般ニ籠リテ徒ニ義理人情ヲ云爲シ共存ノ責任ニ對シ眼ヲ蔽ハントスルガ如キアリ意見具申聞カレズトテ放任主義其ノ日暮的所爲ヲ爲シ命令絕對服從ノ眞意ヲ解セザルノ所行ヲ敢テ爲ス者アリ

長期ノ奇烈ナル戰鬪ニ盡瘁シ人情ノ已ムヲ得ザル處無キニシモ非ズト

雖モ以テ放置スベキニ非ズ何等カ刷新ノ道ヲ講ズルノ要アリト認ム而シテ右ノ狀況ニ立到レル原因如何ヲ考察スルニ何レモ極メテ些細ノ事ニシテ拔キ難キ盤根錯節有ルニ非ズ忘レ得ザルノ深怨長恨有ルニ非ズ唯衝ニ當ルベキ者ノ一段ト眼界ヲ高メ相互ニ意志ヲ疎通セシメントノ注意、虚心坦懷、對者ノ立場ヲ理解セシトノ努力ニ依リ凡テ解消スベキ事項ナリト認メシル又若シ右ヲ以テ解決シ得ザル事アリトスルモ大敵ヲ前ニシテハ之ヲ忘レテ大和一致スベキコト皇軍ノ一員トシテ當然ノ責務ナリト云ハザルベカラズ而シテ此ノ風潮ノ因ツテ來レルハ當ニ當該部隊ノミノ責ニ非ズト認メラレ海軍全體ノ共ニ反省スベキ秋ナリ

二、彼我航空兵力ヲ對比スルニ量ニ於テハ勿論其ノ客觀的質ニ於テモ彼ノ勝レタルヲ否ムベカラズ此ノ量質ノ劣勢ヲ以テ敵ヲ破ルノ道ハ他無シ訓練又訓練ノミ實ニ猛訓練コソハ劣勢ヲ以テ勝タザルベカラザル皇國日本ノ宿命ニシテ是即チ我海軍ノ傳統トシテ繼承シ來レル月々火水木金々ノ猛訓練ニシテ日清日露戰役ノ往時ヨリ先驅總テ之ヲ強固シ又其ノ效果ヲ實戰上ニ證シ來レル處ナリ然ルニ今日實施部隊ノミナラズ戰術方面ニ於テモ作戰指導部門ニ於テモ一擲千金ヲ夢見ントスルノ傾向生ジ訓練ニ對スル關心ニ聊カ昔日ノ後ヲ失ハントスル傾向アルハ大ニ注

意ヲ要スル處ナリト認ム勿論本土即戰場タル今日ニ於テハ大部ノ部隊ハ作戰ト訓練トヲ並行ニ處理セザルベカラザル狀況ニ在リテ訓練ノ實施ニ幾多困難ヲ伴フコトハ否ムベカラザルモ困難ナレバコソ愈關心ヲ深メ凡ユル創意工夫ヲ以テ效率良キ訓練ヲ實施スベキナリ

(1) 右對策ノ一斑左ノ如シ

(1) 作戰指導部ニハ實施部隊ノ訓練關係ニ没頭スベキ専務幕僚ヲ設ケ常ニ實施部隊ニ親灸シ其ノ練度ヲ把握スルト共ニ計畫的ニ訓練ヲ指導セシム

(2) 作戰指導部ハ作戰ニ當リ徒ニ机上ニ於テ出撃機數ノミヲ云々スルコトナクヨク實施部隊ノ練度ヲ視ミ合セ今少シノ訓練ニテ戰場ニ於ケル働キニ大差ヲ生ズベキモノハ適宜割愛シテ次ノ機會ニ廻ス等綜合的戰果ノ大ヲ慮ルヲ要ス

(3) 作戰指導部ハ作戰及訓練ニ關スル各實施部隊ノ任務體勢ヲ爲シ得ル限リ、斷然ト定メ實施部隊ニ安穩シテ訓練ニ没頭シ得ベキ期間ヲ與フル要アリ「一ズルズルベツタリ」式ハ單ニ訓練ノ面ノミナラズ精神的方面或ハ整備上ヨリ見ルモ不利大ナリ

(4) 實施部隊ハ訓練ノ成果ヲ擧グル爲幹部ノ率先垂範ヲ勵行シ熱意ト計畫

性有ル指導ヲ實施スルヲ要ス而シテ
司令、飛行長、隊長等ノ大部分ガ前線基地ニ在リテ後方ノ訓練基地ハ
分隊長ニ委スル如キハ不可ニシテ此ノ邊亦必ズシモ良カラズ宜シク万般
ノ事情ヲ察シテ隊ノ實狀ニ適シ戦況ニ適應スル如ク處置指導ヲ誤ラザ
ルヲ要ス

(四)燃料不足、敵襲等ノ爲訓練實施ハ昔時ノ考ヘ方ニテハ不可能ナリ凡ユ
ル創意工夫ヲ以テ之等ヲ克服スルヲ要アリ

(五)特攻隊ハ特ニ訓練ヲ勵行スベキコトヲ強調スルヲ要アリ若年者ノ間ニハ
特攻隊ナルガ故ニ訓練ヲ輕視スルノ風アリテ之ガ延イテ全體的ニ影響
シ居ルト見ラルル節モアリ恐ルベキ傾向ニシテ極力防遏セザルベカラ
ズ

三現在航空部隊ニ於テ最も重要ナル配置ハ飛行隊幹部ニ於テハ特設
飛行隊長)ナルガ航空戦力向上ノ爲ニハ是非共之ヲ強化スルヲ要アリト認
ム

飛行隊長ノ遂行スベキ任務ヲ考察スルニ作戰關係ニ於テハ親ヲ部下ヲ率
キテ出撃スルノ外時ニ司令、飛行長等ノ上級幹部ヲ短絡シテ陸隊司令部
ニ直結セシメラレ相當程度戰術關係ニ關ラ惱マヌ要アリ地上ニ在リテハ

搭乗員ノ養成、訓練、飛行機實動率ノ向上等戰力増強ノ面ニ於テ隊長
ハ其ノ中心的存在ナリ更ニ特設飛行隊ガ航空隊ト別箇ノ基地ニ駐スル
場合ハ隊長ガ内務、渉外事項ニ熟識セザルベカラズ

斯クテ特設飛行隊長ハ正シク航空部隊ノ中核的存在ナリト云フモ還言
ニ非ズ然ルニ現在ノ隊長ハ一説ニ若年未經験ニシテ此ノ重大ナル職責
ヲ完遂スルニ耐エザル者少ナカラズト認めラルル點アリ之ガ爲ノ現象
トシテ著シキモノヲ考ヘルニ

(1)搭乗員ニ對スル訓練教育一説ニ不足ニシテ中ニハ殆ンド行ハレ居ラズ
ト認めラルル隊アリ
搭乗員ノ數不足ハ夫自体トシテ各種ノ不都合ヲ胚胎スルコト勿論ナ
ルガ延イテ研究心不足ヲ招來シ作業ガ一出タトコ勝負、行キ當リバ
ツタリ一式ニ墮シ戦力低下ノ一大原因タリ

(2)飛行機實動率低下
直接飛行機ヲ握ル隊長ノ整備ニ對スル關心如何ハ實動率ヲ左右スル
コト甚大ニシテ現在ノ實動率不良ハ此ノ點ニ大ナル原因ヲ有スルモ
ノト認め、幹部搭乗員ハ自己ノ扱フ飛行機ニ關シテハ整備員ト同様或
ハ夫以上ノ智識ヲ有シ搭乗員ヨリ見タル整備トシテ整備員ノ氣ノ付

現在ノ機材ノ不良ニヨリ故障復舊ニ追ハレ所謂點檢整備ノ點檢ナルモノヲ行ヒ難キ現狀ニアリテ點檢ヲ無視スルノ傾向可ナリ大ナリ整備幹部ハ此ノ點檢復舊ニ立チ點檢整備ヲ充分行ハシムル機指導スベキナリ

(ハ) 搭乗員ハ實働不良ヲ寧ニ整備員ノ責任トシテ放置スルガ如キコトナク搭乗員トシテ受持ツベキ整備上ノ部門(發動機管制其ノ他)ニ對シテハ完璧ヲ期スルト共ニ其以上ノ分野ニ迄ニ積極的ニ願ヲ突キ込ミテ研究シ整備員ト一體トナリテ努力スベキナリ特ニ飛行長、飛行隊長等幹部ハ整備ニ對スル關心ヲ今一層漲起スル要アリト認ム搭乗員ノ智識、技術ノ不足ガ實働率ヲ低下セシメアル事實ヲ示ス著例トシテ某奇襲作戰ニ於ケル飛行機實働成績ヲ示セバ左ノ如シ

(一) 出發前完備機數 二十六機
(二) 出發不能 五機

内 講

事變ニ依ルモノ
試運轉時機過大ノ爲點火燈汚損シ出發中止 二機
車輪制動機不良ノ爲出發中止 一機
「トラム」機ニ「プロペラ」接觸セル爲出發中止 二機

(三) 出發後引返セルモノ 九機

内 譯 增槽不吸引

二機 (内一機ハ歸着後ノ試験ニテハ吸引ス)

左發動機油溫過昇 一機 (歸着後試飛行ニテハ異狀ナシ)

燃料取入口「パッキン」破損座席内ニ燃料溢出 一機 (引返ス程ノコトニ非ズ)

高迴轉ニ於テ爆音不調 一機 (歸着後試飛行ニテハ意狀ナシ)

燃料片減發動機停止 一機 (操作上ノ錯誤ニヨル)

燃費過大ノ爲五〇〇濕進出發後引返ス 一機 (歸着後試飛行ニテハ燃費過大ナラズ)

電信機故障 一機
本隊ト分離セル爲引返セルモノ 一機

第二 偵察關係

一、偵察兵力ノ多寡精粗ガ作戰ノ成否ニ影響スル處極メテ大ナリ

(1) 三月十八日乃至二十一日ノ機動部隊邀撃戰ニ於テハ晝夜間偵察機隊ノ活躍極メテ有効適切ニシテ先ズ敵ノ攻撃前夜ニ之ヲ捕拏シテ兎モ角モSAF第一戰法ヲ成立セシメ爾後連續敵情ヲ明ニシテ作戰指導並ニ各攻撃隊ノ攻撃實施上至大ノ貢獻ヲ爲セリ、實ニ本邀撃戰成功ノ最大原因ハ此ノ點ニ在リト言フモ過言ニ非ザルベシ、例ヘバ最大ノ戰果ヲ收メタル壱星隊ノ晝間攻撃成功ノ因ハ偵察隊ニ依テ明ニセラレタル敵情ヲ刻々受信シ容易ニ迂回奇襲シ得タルニ因ルガ如ク又四日間ニ亘ル敵ノ行動徑路ノ概略判明シ居ル事從來ノ此ノ種戰鬪ニハ嘗テ見ザル所ナリシガ如シ(別圖第一)

而シテ本戰鬪ニ於ケル偵察機ノ延使用機數ハ晝間二十九機夜間二十二機(中攻十五機飛行艇七機)ナルガ作戰上之ヲ以テ充分トセラレタルニ非ズ、保有兵力ニ抑ヘラレタル最大限ノ數値ナリ(當時ノ五航艦保有兵力ハ彩雲二十五機、戰鬪第一日ノ可動機數八機、搭乗員三十五組、中攻四十二機、搭乗員ノ作戰可能組數十六組、飛行艇十三機)從テ左ノ諸項ヲ考慮セバ此ノ種作戰ニ對スル所要兵力ハ更ニ

大ザルベキヲ思ハザルベカラズ

(一) 本戰鬪ノ偵察ハ比較的綿密ニ行ハレタル如キモ尙戰果偵察ニ充ツベキ兵力ノ抽出出來ズ、戰果明確ナラザルコト

(二) 本戰鬪ニ於ケル敵ノ行動ハ單純ニシテ殆ド機動ヲ行ハズ、從テ狭少ナル範圍ノ索敵ニテ足リシコト

(三) 出發基地ト誘投基地ト異ルコト多キ等ノ爲一作戰一機一回ノ任務飛行分限度ナルコト

(四) 四月十三日十四日ノ機動部隊邀撃戰ハ前項ト對蹠的ノ成異ヲ示シアリ、之ガ原因ハ攻撃兵力ノ使用不如意ナリシ點モサル事乍ラ敵情判明セザリシコト亦重大ナル因ナリト認メラル、而シテ敵情判明セザリシ主因ハ偵察兵力ノ量及質ニ於テ不足ナルニ在ルコト明ナリ

(五) 菊水七號作戦ニ於テ美保ヨリ出發セル夜間哨戒機ガ屋久島南方ニ敵機動部隊在リトノ誤偵察ヲ行ヒタル爲翌日ノ晝間特攻隊ノ主力タル白菊七〇機ニ對スル攻撃準備發令ノ時機遅レ所定時間ニ出發シ得タルモノニシテニミナリ

即チ偵察隊ノ量ハ一定限度以上ヲ保有スルコト絕對必要ニシテ大東亞戰爭以來初メテ偵察隊ヲシキ偵察隊ガ活躍セル三月十八日ノ邀撃戰ハ

極メテ明瞭ニ其ノ價值ヲ示セルモノト言フベク攻撃隊ヲ一部犠牲トスルモ偵察兵力ヲ充實スルコトガ終局ニ於テハ却ツテ利アルヲ認識セザルベカラズ

次ニ其ノ質ニ就テ見ルニ偵察隊ノ損耗ガ若年搭乗員ニ多キ事實並ニ優秀ナラザル偵察機ハ雷ニ成呆撃ヲザルノミナラズ時ニ作戰指導ヲ誤ラシメ無キニ劣ル結果ヲ招來スルコトニ想到セバ偵察機要員ハ万難ヲ排シテ有能ナル者ヲ配スル要アリト言フベシ、特ニ現狀ノ如ク敵ノ一方的制空權下ニ在リテ自主的作戰ヲ企圖センガ爲ニハ精強ナル偵察力ヲ十二分ニ確保スルコトハ絕對的妥求ナリト言フベク「あ」號作戰ヲ始メトシ具サニ管メタル偵察力不足ニ基ク苦杯ヲ茲ニ深刻ニ想起スルヲ要ス

況ヤ次期作戰ニ於テハ偵察兵力ハ單ニ航空作戰ノミナラズ海上攻等ノ作戰ニモ絶對必要ナルニ於テオヤ

偵察兵力ノ整備ニ當リテハ以上ノ戰訓ヲ尊重シ且綜合的作戰ヲ考慮シ以テ整隊ヲ專後ニ殘サザランコトヲ期スベキナリ

ニ戰果偵察ノ重要性ニ關シテハ從來屢強調セラレ常體トナリ居ル事ナリ

然レドモ近時鹵獲セル敵文書又ハ俘虜ノ言ヨリスレバ敵ノ戰鬪用空母ノ損害ハ實ニ「ブーゲンビル」島沖海戰以後僅ニ一隻（比島沖海戰ニ於ケル「プリンストン」）ノミトナリ吾人ニ深刻ナル再考慮ヲ要請シアルモノト言ハザルベカラズ

勿論敵ノ謀略宣傳無シト言フニ非ズ、然レドモ我亦之ヲ絶對的ニ反駁スベキ資料ナク徒ニ敵ノ軍民離間宣傳ノ好標目トシテ許シアルハ遺憾ニシテ今日此ノ點ニ鑑ミテ將來ニ對シ充分ナル手ヲ打ツ要アリト信ズ

對策トシテ差當リ考慮セラルル諸項左ノ如シ

(イ) 搭乗員全体ニ對シ戰果偵察ノ重要性ヲ徹底的ニ認識セシメ更ニ我攻撃兵器ノ威力ニ對ス正確ナル教育ヲ施シ苟且ニモ魚雷一本ニテ戰艦一隻轟沈ト言フガ如キ報告ヲ爲サシメザルコト

(ロ) 各機種共ニ寫眞偵察ヲ勵行セシムルコト

(ハ) 戰果偵察ヲ實施可能ナル程度ニ急遽偵察隊ヲ増強スルト共ニ偵察機ニ對シテハ要スル場合決死的偵察ヲ強行スル如ク指導スルコト

三機ニ臨ミテハ挺身偵察ヲ實施スル要アリ

偵察ノ本質ハ飽ク迄執拗強靱ニ行動シテ生還スルニ在リト雖モ現戰況ニ於テハ必要ニ應ジ挺身偵察ヲ實施シ電報報告ニテ可能ナラバ歸還ハ

考慮セザル底ノ行動ヲ採ルノ要アルモノト認ム、前項戰果偵察ノ重要性ニ對シルモ然リトス
 但シ偵察機數極メテ不充分ナル現狀ニ於テ有能ナル偵察要員ヲ多數消耗スルコトハ爾後ノ作戰ニ影響スル慮甚大ナルモノアリ、挺身偵察實施ノ時機等ニ關シテハ高級司令部ノ慎重ナル處斷ニ依リ定ムベキモノト認ム

四 陸攻ノ偵察専用ニ關シ

八〇一空ニ於ケル夜間哨戒ヲ專務トスル時攻隊總成ノ成員左ノ如シ
 (イ) D級搭乗員ヲB級トナス爲ニ約二ヶ月ニテ目的ヲ達シ得
 (ロ) 夜間行動能力ハ計器飛行能否ニ依リ左右セラルル處八〇一空ニ於テハ自動操縱裝置全幅依存ノ方針ヲ採リ先ヅ自操ヲ極力整備シテ之ヲ以テ計器飛行ヲ實施セシメ從來行ハレタル計器飛行訓練ヲ特ニ行ハズ

(ハ) 夜間哨戒ニ必須ノ術科タル航法ニ關シテハ飛行搭乗員ニ比シ一般ニ關心薄ク基礎的知識ニ缺クル點數カラズ、從テ技術亦充分ト言フ

コト能ハズ、此ノ點特ニ幹部ノ留意ヲ要スルモノト認ム

(ニ) 全般的ニ搭乗員ニハ眞ノ基礎トナルベキ智識不足ニシテ且研究心旺

感ナラザル點アリ、二次電池ノ整備法ヲ知ラズンテ過放電セシメ爲ニ電探、電信機等ガ毎回作動セザル如キ憂候アリ(本項ハ特ニ陸攻隊搭乗員ノミノ事項ニ非ズ)

五 敵電探哨戒圈内ニシテ且戰鬪機ノ跳梁大ナル地域ノ索敵法

沖繩周邊ノ晝夜間索敵哨戒ニ於テ考慮セラレアル事項概ネ左ノ如シ
 (イ) 晝間索敵(使用機彩雲)

(一) 出發點(航法基點)ヲ著明目標ニ選定セズ、又適宜之ヲ變更ス

或ハ各機ノ出發點ヲ異ナラシム、哨戒機ニシテ都井崎附近ニ於テ

晝夜戰ニ遭遇セルモノ多ク未歸還トナレルモノモアリ

(二) 索敵線ハ一律ナル構成ヲ避ケ不規則ナル形トシ且直線「コース」ノ部ヲ可及的短縮シテ變針ヲ多クス(別圖第二)

(三) 索敵線構成要領ハ屢變更シ索敵方向、旋回方向等ニ變化アラシム

(四) 飛行高度ノ選定ニハ敵戰鬪機警戒見張上ノ要求ヲ第一ニ考慮ス

即チ天候許ス限リ高々度八〇〇米以上トシ不可能ナル場合

ハ超低高度トス、中間ノ高度ハ不可ナリ、超低高度ノ場合余リニ

低クスル時ハ敵戰鬪機回避ニ際シ降下増速ノ餘地無キヲ以テ二〇〇

〇、三〇〇米ヲ可トスル如シ

而シテ右高度ハ敵戰鬥機ガ我基地上空迄行動シアル狀況ナルヲ以テ出發直後ヨリ歸着直前迄使用ス

(五) 見張ハ全「コース」ヲ適シ寸時モ忽ニセザルヲ要ス、敵ハ相當數ノ潜水艦ヲ九州沿岸ニ配シテ我飛行機ノ早期發見ニ努ムルノ外凡ソル哨戒ノ手ヲ打チツツアリ、毎回必ズ敵戰鬥機ト遭遇ス、基地直前ニ於テ高度ヲ低下セル際擊墜セラレタル例アリ

(六) 歸投基地トシテハ備有基地ノ外必ズ二、三ノ豫備基地ヲ定メ置キ個有基地空襲ノ爲危険ナル場合ハ直ニ豫備基地ニ歸投セシムル如クス

(七) 使用電波ハ平短ナルコト勿論ナルモ往復共ニ基地附近ハ特ニ乙短ニ切換ヘ基地ノ空襲狀況其ノ他要注意事項ヲ洩レ無ク通報ス

(四) 夜間索敵(使用機一式陸攻)

(一) 出發點ニ關シテハ晝間索敵ニ同ジ

(二) 索敵線構成ハ檜ネ晝間索敵ニ準ズ、猶敵夜戰ノ哨戒區域ハ一定シアルヲ以テ(奄美大島、喜界島上陸東西線、島島ヲ通ズル四五度二二五度線)此ノ附近ヲ通過スル場合ハ之ヲ字運動ヲ行フ、之ヲ字運動ハ基準航路ノ左右五度以内ニ於テ行ヒ其ノ具体的要領ハ搭乗員

ニ委セアリ、變針時電探反射紙ヲ撤布ス

(三) 索敵高度ハ電探全幅利用索敵ナルヲ以テ四〇〇〇乃至一〇〇〇米ヲ採用各機毎ニ高度ヲ變更ス、沿岸近キ機ハ低クス

六 敵機跳梁地域ヲ行動スル場合基本的推測航法ノ實施ハ相當困難ナリ

簡單確實ナル無線航法ノ確立ヲ必要トス

敵機ニ對スル連續不斷ノ見張警戒ヲ要スルコト並ニ高々度飛行多キ狀況ナル爲基本的推測航法ハ實施困難ナルノミナラス其ノ精度亦不良ナル實狀ニシテ航法トシテハ統計ヨリ推定セル飛行高度ノ風向風速ヲ全幅使用シテ(或ハ當日ノ測風氣球ニ依ル測定値ヲ加味シ)實施シアリ爲ニ八〇〇米附近ヲ行動スル彩雲ニ於テハ比較的良好ナル精度ヲ示シアルモ中高度ヲ採ル夜間索敵機等ニ於テハ相當ノ誤差ヲ出シアル狀況ナリ

地上無線方位測定ニ依ル機位決定通報等ノ簡單確實ナル方策ヲ至急確立ノ要アリト認ム(横空研究ニ依レバ電波方位測定モ相當ニ利用價値アリ)

但シ推測航法ハ飽ク迄航法ノ基礎ニシテ電波兵器等ヲ極度ニ航法上ニ利用シアル米ト雖モ尙推測航法ノ重視ヲ強調シアルハ他山ノ石ト爲ス

ベク此ノ點指導幹部ノ留意スベキ處ナリト認ム

七 對空警戒至嚴ナル敵機動部隊ニ對スル觸接ハ索敵ノ連續ヲ以テ觸接ト爲スノ方策ニ據ルヲ至當トス

最近ノ米機動部隊ノ對空警戒方式ハ極メテ徹底シ且相當外側遠距離ニ及ビアルヲ以テ從來考ヘラレタル如キ一機ノ觸接機ガ隱顯出沒シテ觸接スルガ如キ方式ハ極メテ困難ナリ、又辛ジテ之ヲ行ヒ得ル場合ト雖モ不斷ノ見張ヲ要スル狀況ニ於テ搭乗員ノ耐ヘ得ル限度ハ一時間程度ナリ(三月十八日)邀撃戰闘ノ戰例ニ徵スルニ觸探行動時間大ニシテ疲勞ノ爲歸投直前擊墜セラレタリト推定サルモノ四機ヲ出セリ故ニ觸接トシテ一定時隔ヲ以テ連續索敵機ヲ發進シ索敵ノ連續ヲ以テ觸接トスルノ方策ヲ採用セザルベカラザルモノト認ム

八 對空警戒至嚴ナル機動部隊ノ發見報告法

敵機動部隊ノ電探哨戒隊内ニ於テハ全搭乗員見張ニ專念スル要アリ故ニ偵察隊ニ於テハ暗號作製發信等ハ少クトモ八〇哩以上離隔シテ後行フ如ク指導セラレアリ、迅速ナル報告ハ勿論原則トスル處ナルモ基地航空部隊ノ作戰ニ於テハ若干ノ許容度アルベキヲ以テ右ノ方策ヲ適當ト認ム、但シ簡單ナル發見第一電ハ直ニ發信シ第二電詳報以下ヲ

離隔後落着キテ發信スルヲ最良ノ方策ト認ム

九 單座戰闘機ノ航法

七 二一空隊戰隊ノ實施シアル單座機ノ航法ハ左ノ要領ニシテ飛行時間一〇〇時間内外ノ若年搭乗員ニ對シ二回程度ノ保針訓練ヲ以テ實施セシメ成果良好ナリ

(イ) 地物無キ洋上ノ進出距離ハ概ネ一五〇哩ヲ限度トス

(ロ) 航路上ヲ巡航速度(實速)十分間ノ航程ニテ切り出發點ヨリノ時間ニ依リ機位ヲ求ム

(ハ) 敵戰闘機ニ遭遇セル場合ハ全速ヲ使用ス、此ノ場合ノ航程ハ六分間ガ巡速十分間ニ相當スルヲ以テ其ノ割合ニテ換算ス

(ニ) 航路ニ於ケル偏流實速ハ出發前指示ス、之ガ基礎タル風向風速ハ天氣圖其ノ他ニ依リ幹部ガ研究決定ス

七 彩雲ノ敵戰闘機ニ對スル性能ハ現狀ニ於テ辛ジテ任務遂行可能ナル程度ニシテ性能向上ヲ要スルコト切ナルモノアリ

(イ) 現在敵戰闘機ヲ遠距離ニ先制發見セバ辛ジテ離陸可能ナルモ見張力ニ不足アル若年搭乗員ニシテ捕捉擊墜セララルモノ相當アリ(二月以降約三〇機)

(四) 敵戦闘機ハ戦闘馬力ノ使用加速「ロケット」ノ使用等ニ依リ速度増加ニ努メツアリ、三月十八日ノ戦闘ニ於テ約三〇〇〇米ノ距離ニ敵戦闘機ヲ先制発見直ニ全速退却セルニ敵ハ加速「ロケット」ヲ使用シ約五〇〇米迄近接爾後次第ニ引離シ漸ク離脱シ得タル例アリ

(五) 高々度ニ於テハ敵ノ三速發動機使用等ニ依リ我ニ不利ナリ

以上ヲ要スルニ偵察機ハ敵戦闘機ヨリモ速度ニ非ザレバ任務遂行不能ナルハ從來ノ戰訓ニ依リ明カナル處現在彩雲ノ性能ハ殆下之ガ能否ノ分レ目附近ニ在リト認メラレ急性能向上ノ對策ヲ實現セザレバ明日ノ偵察ヲ期待シ得ザルモノト認メラル

去彩雲ノ實動状況改善ニ關シ格段ノ努力ヲ必要トス

偵察第十一飛行隊ノ例ニ徴スルニ本年一月ヨリ三月迄ハ實動良好ニシテ任務飛行延一四〇機中發動機故障ノ爲不時着セルモノ僅カニ一件ノミナリシ處三月以降極メテ不良ニシテ同ジク任務飛行一四〇機引返シ不時着約四〇件ニ及ベリ、機材ニ信頼性少ク實動不良ナルハ直接兵力ノ減少トナリテ作戦指導上不利大ナルノミナラズ搭乗員ノ志氣ニ及ボス影響亦輕視スベカラザルモノアリ

又機體ノ發動機ノ工作不良ハ性能低下ヲ來スコト大ニシテ飛行ソノモ

ノハ可能ナル場合モ敵戦闘機ニ對抗シテ一節ヲ争フ偵察機ニ於テハ致命的ナル場合多シ生産關係者ニ對シ層一層鞭撻ヲ加フルノ要アルヲ痛感スルト共ニ次第二搭乗員ノ素質低下ヲ來シツツアル現状ニ鑑ミ搭乗員ニ對シ機體發動機ノ實相ヲ把握セシメ其ノ全性能發揮ニ遺憾ナカラシムル様整備取扱教育ヲ徹底スル要アリ

去戰鬥機ヲ以テスル偵察ニ關シ更ニ眞劍ナル準備ヲ必要トス

四月十三日敵機動部隊九州方面來襲ニ際シ紫電二機ハ敵襲ノ間隙ヲ縫ヒテ發進敵機動部隊ニ群ヲ發見敵情ヲ明ラカニセリ、當時彩雲ニ依ル三段ノ索敵ニ於テ敵情ヲ待ズ、本戰鬥機ノ偵察ニ依リ初メテ敵ヲ捕捉セルモノニシテ戰鬥機ヲ偵察ニ使用可能ナルヲ立證セルモノト言フベシ、但シ本戰例ニ依リ彩雲ニテハ不可能ナル偵察ヲ現戰鬥偵察機ガ實施シ得タリトスルハ早計ニシテ第三段索敵ニ發進セル彩雲モ亦同ジ敵ニ觸接セル事實ハ之ヲ立證ス、偵察ノ困難性益々増大ノ傾向ニ在ルヲ以テ彩雲ノ活動ガ封セラレタル場合戰鬥機ヲ以テ強行偵察ヲ實施シ得ル如ク準備スルコトハ絶体必要ト認ムルモ現戰鬥偵察隊ノ陣容ニテハ單ニ偵察機ノ不足ヲ補フ程度ノモノタルベク眞ニ彩雲ノ實施シ得ザル強行偵察ヲ行ハシメントセバ戰鬥機搭乗員トシテノ經驗充分ニシテ且

有能ナル者ヲ配シ更ニ偵察ニ對スル訓練ヲ充分ニ實施スル要アリ、特ニ其ノ心的素質ニ關シテハ單機獨往スベキ偵察ニ於テハ空戰以上ニ勇氣、責任觀念、等ヲ必要トスルヲ以テ戰機中ノ落伍者ヲ之ニ配スル如キハ根本的ニ誤レル觀念ト言ハザルベカラズ、
猶單座機偵察ノ場合敵位置ノ迅速正確ナル入手ノ爲ニ傾斜方位測定ニ依ル機位決定法ノ確立ハ缺クベカラザル事項ト認ム

其偵察機ノ發着搭載量ハ增加スル要アリ
現在彩雲ノ發着機ハ九本ナルモ出發直後ヨリ離着直前迄高々度飛行ヲ實施セザルベカラザル狀況ニ於テハ不足ニシテ携帶用酸素瓶ヲ補充トシテ携行シツツアリ最少限一名ニ付四本ヲ要スルモノト認メラル
陸軍百司偵ハ搭乘員二名ニシテ酸素瓶十本ヲ有ス

其晝間用威嚇彈ヲ要望ス

晝間偵察機ガ敵戰團機ニ追跡セラレタル場合之ヲ威嚇シテ追跡ヲ斷念セシムルカ或ハ最少限一時的ニテモ回避、減速等ノ手段ヲ採ラシムベキ威嚇彈ノ至急實現ヲ要望シアリ、而シテ此ノ場合實害ヲ與ヘ得レバ更ニ可ナリ
現狀ニ於テ彩雲ハ敵戰團機ヨリ若干優速ナルモ加速過キ爲近距離ニ敵

ヲ發見セル場合ハ間ニ合ハズ、此ノ場合敵ニ一時手間ヲ取ラシムレバ離陸可能ナルコト多シト認メラル譯ナリ、夜間用威嚇彈出來タルモ之ハ發煙少ニシテ晝間用トシテハ價值少シ

其夜間暗戒機トシテハ現一式陸攻程度ノ搭乘員數多キ機種ヲ絕對必要トス

八〇一空ニ於ケル現狀左ノ通

(イ) 操縦員二名
夜間行動ニ強靱ナルハ二名アルガ爲ニシテ絕對減少シ得ズ

(ロ) 偵察員二名
先任者ヲ後席ニ配置シ航法全般、天測、電探員トノ連絡、電報ノ起

業等ニ任ズ、後任者ヲ前席ニ配シ主トシテ推測航法ニ專念セシム

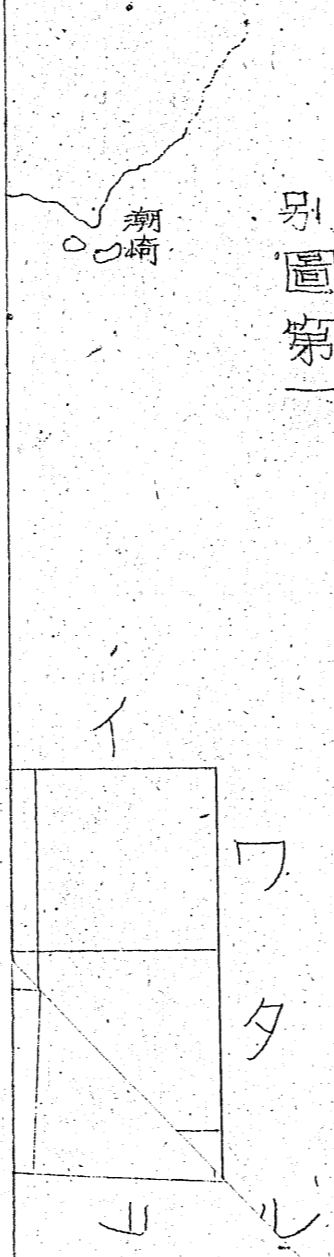
(ハ) 電探員一名
最少限一名必要ナルハ説明ヲ要セズ

(ニ) 電信員二名
主電信員ハ通信專問、副電信員ハ見張ヲ主トシ暗號員トシテ使用ス

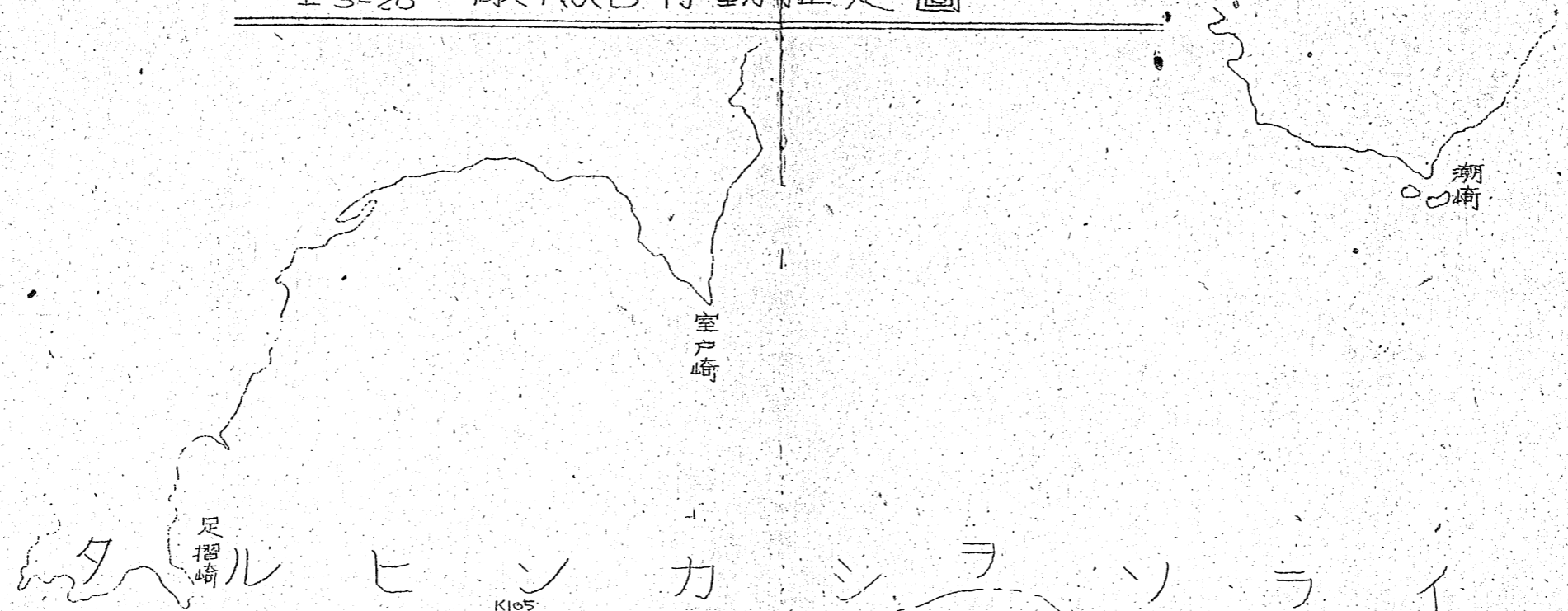
(ニ) 搭整員二名
主整ハ機内傳令ヲ兼ネ固有任務ニ就キ副整ハ射手トシテ使用ス

右ノ内電信員及搭整員ハ已ムヲ待ザレバ一名トスルモ任務遂行可能ナルベシ、故ニ最少限七名ハ絶対必要ナリ、此ノ點ニ於テ次代ノ夜間哨戒機トシテハ銀河ノ如キ搭乗員數少ナル機種ハ不適ニシテ差當リハ陸軍ノ第六七ヲ要望セラレアリ

別圖第一

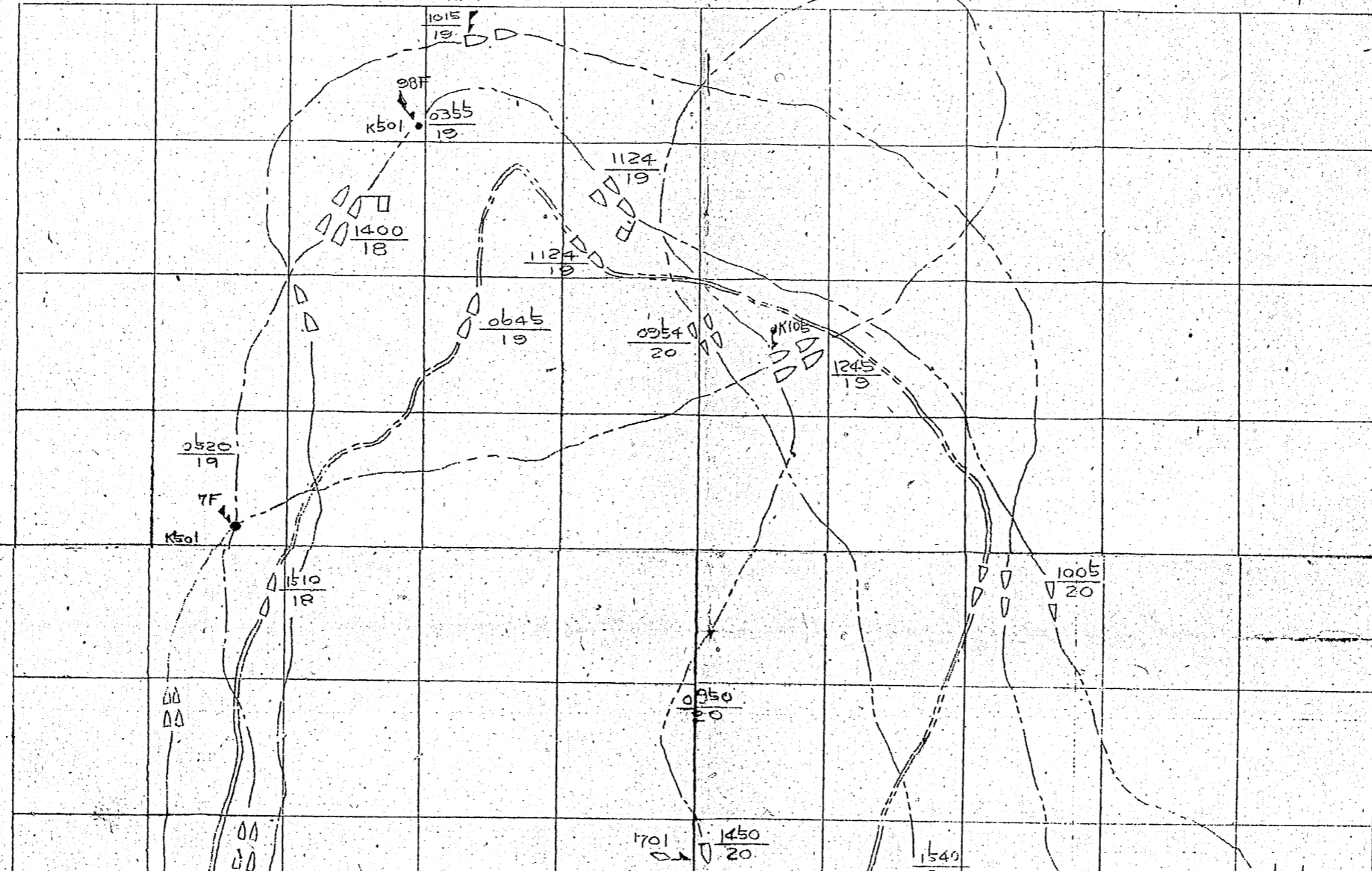


自 3-18
至 3-20 敵 KAB 行動推定圖



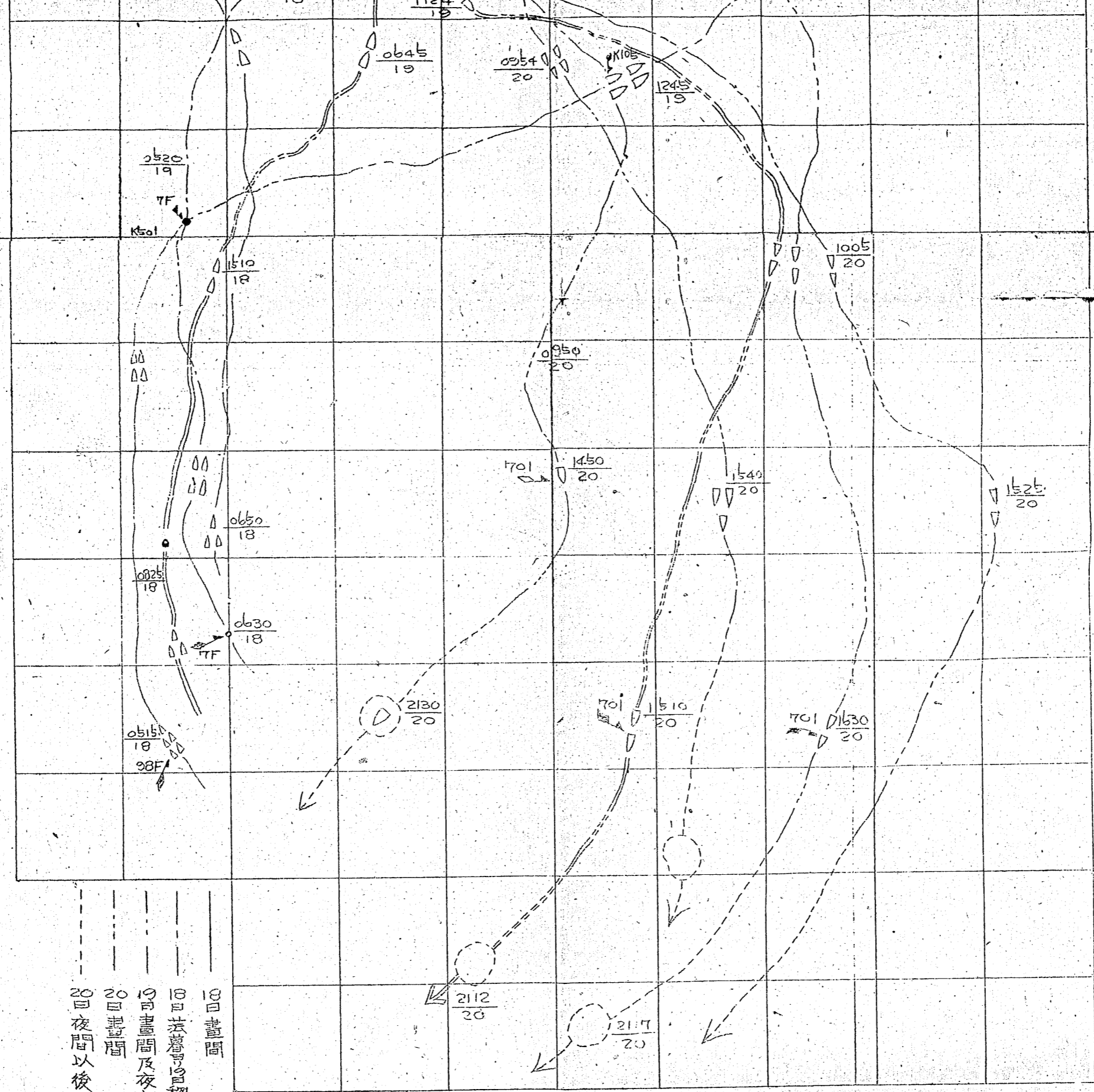
別圖第一

イ
ソ
ラ
ヲ
シ
カ
ル
ヒ
ン



ワ
タ
ル
ヒ
ン
カ

ル
 七
 シ
 カ
 シ
 フ
 ソ
 ラ
 イ
 □



18日晝間
 18日法蘭西軍艦隊
 19日晝間及夜間
 20日晝間
 20日夜間以後